



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



『北海道地名誌』

更科は、1950(昭和25)年にNHK札幌放送局の嘱託となつてから、北海道に関する記録映画制作やアイヌ伝統音楽の採録など、いろいろな仕事を行っています。1959(昭和34)年には『北海道市町村名の起源(そのI)』(そのIII)を、NHK札幌中央放送局から謄写版(俗称「ガリ版」、非売品で刊行していました)。

北海道の地名を解説した書物は、先達の数多くの研究者によって出版されていて、更科自身も1966(昭和41)年に『アイヌ語地名解—北海道地名の起源—』を刊行しています。NHK札幌放送局では、1965(昭和40)年ころから部内用素材として整えるため、北海道内の地名を調べ作業をしていました。この作業も、更科が道内の全ての市町村を訪ね歩き、編集に携わっています。これを書籍にしたのが『北海道地名誌』で、旧支庁(現在の地方総合振興局、地方振興局)管内に分け、市町村ごとの地域名を解説したものです。

更科は解説の中で「近年、特に戦中から戦後にかけて行政上の変化から字名の変更などによって、これまで使われていたアイヌ語の地名が捨てられ、或いは変形させられて、景気がよくなるような、金の儲かりそうな欲ばった地名に改正されてしまい、学者達が貴重な資料としていたものが、おしくも日に消滅しているということがいえる。しかしそれは現在社会の状態を物語るものとして残っている、歴史の姿ということもできるが、そうした地名の混乱変換期に、現在の地名を克明に書き残すということが、貴重な仕事ということができれば」と言っています。

弟子屈町にある「平和」という地名は本文でも触れているのですが、同じく巻末の解説で「弟子屈町では、サンペという老人が住んでいたところをサンペコタン(サンペの村と呼んでいたが、戦後平和と改名したという」と、くどく説明しています。更科が生まれ育ったころ、熊牛原野の釧路川の川向こうに住んでいたサンペ老人の名前が付けられていた地名がなくなることに、寂しさを感じているようです。

また、何度となく出てくる弟子屈町の町名改正の話にも、くぎを刺しているようにも思えるのですが。

平成23年度 町民大学 『生きがい講座』で楽しく学習しませんか？

学級生募集!

町教育委員会では、町内にお住まいの60歳以上の方々を対象に、心身の健康と生きがいを求め、明るい家庭・社会参加と豊かな地域づくりに役立つことを目的として、町民大学「生きがい講座」を開設しています。

学習内容は、野外活動・体力づくり・体験学習などを取り入れ、毎月1回、弟子屈学級・川湯学級でそれぞれ実施します。

月別の学習内容は次のように計画していますので、入学を希望される方はお申し込みください。

※日程は変更になることもあります。



健康体操を学ぶ学級生

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4	月											
21	16	17	15	18	13	16	7	未定	26	14	28	未定	24	10	未定	未定	15	未定	18	18	15	日	
弟子屈	川湯	川湯	弟子屈	弟子屈	川湯	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	川湯	弟子屈	弟子屈	川湯	川湯	学級
う	閉講式 明日への生きがいを持とう	健康体操 ヨガ	楽しい講話 手品	新年の喜びを語り合おう	新年交流会	料理教室 ケーキ作り	料理教室	室内運動(合同)	文化活動	文化活動 厚岸町七宝焼	声高らかに	鶴居高齢者大学との交流	室内運動 奥春別	施設研修 釧路市	研修旅行(合同)	声高らかに	健康体操	体験学習 潮干狩り	施設研修 上湧別ほか	学ぶ意欲を持とう	開講式	学習内容	

□申込期日 / 3月31日(木)

□申し込み・問い合わせ先 / 弟子屈町公民館 ☎482-2340

広報てしかがが 2部門で入選

第57回北海道広報コンクール



平成22年に発行された広報紙を対象とした第57回北海道広報コンクール(広報広聴技術研究会実行委員会主催)が行われ、広報てしかがが「広報紙(町村の部)」「広報写真・組写真」の部で、それぞれ入選しました。

コンクールは、道内自治体や関係団体が発行した広報紙を対象に、優秀な作品を選定、奨励することで、広報技術の向上につなげることを目的に、毎年行われています。入選したのは、広報紙が平成22年10月号で、青少年健全育成事業を特集したものです。組写真が8月号18~19ページで、運動会の様子を紹介したものです。広報紙の入選は3年連続、組写真の入選は2年連続です。

入選は、取材などに快く協力してくださった皆さんのおかげです。これからも親しみやすく、役に立つ広報を目指していきます。

□問い合わせ先
役場企画財政課企画係 ☎482-2913(課直通)まで。

新規会員を募集中

『ましゅうの里』をご存じですか



会員の皆さん

NPO法人(特定非営利活動法人)「ましゅうの里」(藤泰人理事長)をご存じですか?

ましゅうの里は、2001年発足の町内で最も古いNPO法人です。町民の皆さんの豊かで自立した在宅生活、地域特性を生かした産業の振興、環境の保全に寄与しようと設立されました。

現在、会員は67人。うち11人が理事となっています。毎月第2火曜日が例会日で、活動についての討議を行っています。主な活動内容は、機関誌「こぶし」の毎月発行、池の湯清掃(6~9月)、花いっぱい運動として900草原に花畑を持っています。また「羽田里山公園森づくり計画」「摩周湖周辺の森林緑化再生計画等事業」なども手掛けています。

ましゅうの里では現在、新規会員を募集しています。老若男女を問わず、できるだけたくさんの方に会員になっていただきたいと思っています。

興味のある方は、事務局長の須藤さん ☎482-4824までお気軽にお問い合わせください。また、ホームページ(<http://mashuu.dialog.jp/>)もご覧ください。